

数学演習第二 演習第 8 回 微積：偏微分 [3]  
(陰関数・ラグランジュの未定乗数法)

2020 年 12 月 9 日 実施

- **小テスト** の問題は **1** の 4 問です。 **レポート課題** は **2** の 4 問です。
- それ以外の問題は自習用問題です (こちら是非解いて下さい)。
- 要点もよく読むこと。レポート課題の答案には答えだけでなく途中の計算も書いて下さい。

【要点】

[1] 陰関数  $D$  を  $\mathbb{R}^2$  の空でない集合とし,  $f(x, y)$  は  $D$  で定義された 2 変数の実数値関数とする.  $f(x, y) = 0$  ( $(x, y) \in D$ ) をみたすとき,  $x$  と  $y$  は互いに関係し,  $x$  のある点の近くでは,  $y$  は  $x$  の関数と見なされる場合がある. つまり, ある点  $a$  を含む開区間  $(a - r, a + r)$  で定義された 1 変数の実数値関数  $y = \varphi(x)$  が存在して

$$f(x, \varphi(x)) = 0 \quad (a - r < x < a + r)$$

をみたすとき,  $y = \varphi(x)$  を  $f(x, y) = 0$  で定義された陰関数 (implicit function) という. 微積の教科書の定理 4.4.1 (陰関数の存在定理) は,  $f(x, y)$  が領域 (連結開集合)  $D$  において  $C^1$  級で, かつある点  $(a, b) \in D$  に対して,  $f(a, b) = 0$ ,  $f_y(a, b) \neq 0$  であれば,  $f(x, y) = 0$  の  $C^1$  級の陰関数  $y = \varphi(x)$  が存在することを主張している. このとき,  $f(x, \varphi(x)) = 0$  の両辺を  $x$  でそれぞれ微分すると, 合成関数の微分に関する連鎖律 (定理 4.2.4) から

$$0 = \frac{d}{dx} f(x, \varphi(x)) = f_x(x, \varphi(x)) + f_y(x, \varphi(x)) \varphi'(x)$$

が成り立つ. ここで,  $f_y(x, y)$  は点  $(a, b)$  で連続なので, 点  $(a, b)$  の近くで  $f_y(x, y) \neq 0$  に注意すると

$$\varphi'(x) = -\frac{f_x(x, \varphi(x))}{f_y(x, \varphi(x))}, \text{ あるいは, } \frac{dy}{dx} = -\frac{f_x(x, y)}{f_y(x, y)}$$

と表される. 更に,  $f(x, y)$  が  $C^n$  級ならば, 陰関数  $\varphi(x)$  も  $C^n$  級である.

[2] 2 変数関数のラグランジュの未定乗数法 (定理 4.4.2)  $D$  を  $\mathbb{R}^2$  の領域 (連結開集合) とし,  $f(x, y), g(x, y)$  は  $D$  で定義され,  $C^1$  級であるとする. また,  $(x, y, \lambda) \in D \times \mathbb{R}$  に対して, 3 変数関数

$$F(x, y, \lambda) = f(x, y) - \lambda g(x, y)$$

を定める. 条件  $g(x, y) = 0$  の下で,  $f(x, y)$  がある点  $(a, b)$  で極値をとるとき,  $g_x(a, b) \neq 0$  または  $g_y(a, b) \neq 0$  であれば, ある実数  $\alpha$  が存在して

$$F_x(a, b, \alpha) = 0, F_y(a, b, \alpha) = 0, F_\lambda(a, b, \alpha) = 0$$

が成り立つ. この  $\lambda$  をラグランジュ乗数 (Lagrange multiplier) ということがある.

### 【小テスト：オンライン受験】

1  $f(x, y) = x^4 + y^2 - 2$  に対して,  $f(x, y) = 0$  で定義される陰関数  $y = \varphi(x)$  について, 以下の問いにそれぞれ答えよ.

(1) 次の4つの関数のうち,  $\varphi(x)$  の1つと一致する関数を すべて 選べ.

(ア)  $\sqrt[4]{2-x^2}$       (イ)  $\sqrt{2-x^4}$       (ウ)  $\sqrt{x^4-2}$       (エ)  $-\sqrt{2-x^4}$

(2) 次の4つの関数のうち,  $\varphi'(x)$  の1つと一致する関数を すべて 選べ.

(ア)  $-\frac{2x^3}{y}$       (イ)  $-\frac{y}{2x^3}$       (ウ)  $\frac{2x^3}{\sqrt{2-x^4}}$       (エ)  $-\frac{2x^3}{\sqrt{2-x^4}}$

(3) 曲線  $f(x, y) = 0$  上の点  $(-1, 1)$  における接線の方程式を次の中から選べ.

(ア)  $y = 2x - 3$       (イ)  $y = -2x - 1$       (ウ)  $y = 2x + 3$       (エ)  $y = -2x - 3$

(4) 次の4つの関数のうち,  $\varphi''(x)$  と関数値が常に一致する関数を すべて 選べ.

(ア)  $-\frac{2x^2(2x^4 + 3y^2)}{y^3}$       (イ)  $\frac{2x^2(x^4 - 6)}{y^3}$   
(ウ)  $-\frac{2x^2(y^2 + 4)}{y^3}$       (エ)  $\frac{2x^2(2x^4 + 3y^2)}{y^3}$

### 【レポート課題：オンライン提出】

2  $f(x, y) = x^2 - xy + y^2 + 2x - y - 2$  に対して,  $f(x, y) = 0$  で定義される陰関数  $y = \varphi(x)$  について, 以下の問いにそれぞれ答えよ.

(1)  $\varphi'(x)$  を  $x, y$  の式で表せ.

(2)  $\varphi'(a) = 0$  をみたす  $a$  の値をすべて求めよ.

(3)  $\varphi''(x)$  を  $x, y$  の式で表せ.

(4)  $\varphi(x)$  の極値をすべて求めよ.

### 【それ以外の自習用問題】

3 (演習書 問題 5.2.3) 次の 2 変数関数  $f(x, y)$  に対して,  $f(x, y) = 0$  で定まる陰関数  $y = y(x)$  について,  $y'(x), y''(x)$  をそれぞれ  $x, y$  を用いて表せ. また, 曲線  $f(x, y) = 0$  上の指定された点における接線の方程式を求めよ.

(0)  $f(x, y) = 2x^2 - 2xy + y^2 - 1 \quad (-\infty < x, y < \infty) \quad (0, 1)$

(2)  $f(x, y) = \sqrt{x} + \sqrt{y} - 2 \quad (x \geq 0, y \geq 0) \quad (1, 1)$

(4)  $f(x, y) = \log \sqrt{x^2 + y^2} - \text{Tan}^{-1}\left(\frac{y}{x}\right) \quad (x \neq 0) \quad (1, 0)$

(5)  $f(x, y) = xe^y - y + 1 \quad (-\infty < x, y < \infty) \quad (-1, 0)$

4 3 のそれぞれの陰関数  $y = y(x)$  について, 極値が存在すれば, それらをそれぞれ求めよ. また, 3 のそれぞれの  $f(x, y)$  について, 曲線  $f(x, y) = 0$  上の点の  $y$  座標の最大値・最小値が存在すれば, それらをそれぞれ求めよ.

5 条件  $g(x, y) := x^2 + y^4 - 3 = 0$  の下で, 関数  $f(x, y) = xy$  の極値を調べる.  
( $A := B$  は,  $A$  を  $B$  で定義する, プログラミング言語 PASCAL の記号に由来する.)

(1) ラグランジュの未定乗数法を適用するために, 3 変数関数

$$F(x, y, \lambda) := f(x, y) + \lambda g(x, y) = xy + \lambda(x^2 + y^4 - 3)$$

を導入し, 条件  $g(x, y) = 0$  の下で,  $f(x, y)$  がある点  $(a, b)$  で極値をとると仮定して,  $a, b, \alpha$  についての連立方程式

$$F_x(a, b, \alpha) = 0, F_y(a, b, \alpha) = 0, F_\lambda(a, b, \alpha) = 0$$

を解き, 極値をとる点  $(a, b)$  の候補をすべて求めよ.

(2) 次に, それらの点  $(a, b)$  の近くでの  $g(x, y) = 0$  より定まる陰関数  $x = \varphi(y)$  を考えて,  $f$  を 1 変数化した関数  $h(y) := f(\varphi(y), y) = y\varphi(y)$  の極値問題に帰着させる. そこで,  $0 = g(\varphi(y), y) = \{\varphi(y)\}^2 + y^4 - 3$  の両辺をそれぞれ  $y$  で微分して,  $\varphi'(b), \varphi''(b)$  の値をそれぞれ計算せよ.

(3) (2) から,  $h''(b)$  の値を求めて符号を調べ, 微積の教科書の定理 2.3.2 を適用し,  $f(a, b) = h(b)$  が極値ならば, 極大・極小の判定を行ない, その値も求めよ.

(4)  $K := \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid g(x, y) = 0\}$  における  $f(x, y) = xy$  の最大値と最小値を求めよ.